

2014年度 事業報告

2015年5月30日

社会福祉法人友の会

2014年度の事業について次の通りご報告致します。

1 2014年度の事業の特徴

- ① 利用者増への対応・日中施設の増設への取り組み(前進)
 - ⇒ 2013年度に引き続き、「しげのぶ特別支援学校」からの卒業生の受入と、道後ゆう等他施設からの受入もあり、定員40名に対し、現員49名となり来年度の利用者受入が困難な状況となっているが、2014年度は前提となる隣接土地の確保が実現できた 2015年度に向けて、施設増設・定員増(40→50名)への対応として、昨年につづき補助または助成金申請に努力する
- ② 「生活施設建設」に向けての取り組み
 - ⇒ 2013年度と変わらず、現状では、身体障がい者を中心とした生活施設の運営はまだまだ困難、今後の施策の改訂を待たざるを得ない状況である
「生活施設建設」に向けては、昨年度のアンケート調査を参考に、利用者・ご家族の想いについて理解を得ることが重要 今後も様々な意見を聞き運営に反映させて行きたい
「生活施設建設」については、急を要する利用者・家族もおり、多用な方向性を柔軟に検討し要望に応えるべく努力をしなければならない
- ③ 地域との交流が一層推進された 開かれた「なかま共同作業所」へ
 - ⇒ *2014年度の「なかままつり」は、
 - 1)2012年度なかま開設10年目のまつりの流れが定着した感があり、2014年度も来場者が増
 - 2)和気小学校金管バンド部の参加、聖カタリナダンス部・ジャグリング部の参加等、盛大であった*「太山寺保育園」「みどり小学校」との交流会、「しげのぶ特別支援学校」の現場実習等に加え、「北中学校」との交流、「愛大附属特別支援学校」の現場実習、「高知県盲学校」の見学等、また、初めて「松山市職員福祉研修」として、2名×2日×2回の受入、さらに「聖カタリナ大学」ボランティア5名の受け入れも行った
さらに、バザーへの参加など2014年度も地域交流が一層推進された
- ④ 職員体制の充実・研修の推進、支援・指導の向上をめざしてきた
 - ⇒
 - 1)個別の研修として、「福祉車両安全運転講習会」「福祉の職場新人研修」「社会保険事務講習」「介護技術講習会」「日本財団セミナー」「安管講習」「社会福祉会計講座」「愛媛県集団指導」など、施設運営に必要な講習に積極的に参加した
 - 2)また、研修旅行として「他施設見学」「きょうされん全国大会」「利用者部会」「四国学習交流会」などにも積極的に参加、それぞれ報告集会も実施した
 - 3)2012年度以来、大卒新人の入所があり、各種講習・資格取得を体系化して行きたい
- ⑤ 災害対策について
 - ⇒ *2012年度から災害対策を進め、防災用器具(通常の施設イベントにも活用)・食料備蓄(3日分)などの更新も行い整備を継続してきた
*愛媛県・松山市からの要請で、あらためて「防災規程」の見直しを行い、届け出た
*ただし、現実の大震災に対応できるだけの体制・訓練にはほど遠い状況にあることを認識し、日々努力することとした
- ⑥ ホームページの立ち上げ
 - ⇒ *長年の懸案であった「なかま共同作業所ホームページ」の立ち上げを職員の実力で実施できた
*法人・施設の事業運営および決算状況の公開が松山市からも要請されており、「なかま」の運営状況・活動状況を写真もふんだんに使いながら紹介すると共に、健全な財政運営の紹介も出来るようになった
*さらに、身体障がい・特に視覚障がい者を受け入れる施設の特徴も紹介できた

2 支援計画の確立・利用者/家族とのコミュニケーションの強化

利用者に対する「個別支援計画」はかなり充実してきており

- (1) なかまおよび家族のニーズ(自分/家族ののぞみ、施設・支援員への要望)の把握
 - (2) 4月、10月および3月の支援計画の作成と見直し・総括予定通り実施されてきている
- 利用者個々に目標の明確化・職員の共通認識を持てるよう一層努力したい

3 生活介護について

- ① 今年度は週単位のカリキュラム(散歩・買い物・シュレッター・外請けなど)を実施、また「音楽療法」も継続、なかまが穏やかに過ごせるよう努力した
- ② 工賃評価はB型と同一の評価基準とした、ただし「本人支給金」としての支出は継続した
- ③ 家族とのコミュニケーションとして「連絡ノート(サービス提供記録)」の利用も定着した

4 就労継続支援B型について

5-1 自主製品の基盤整備と伸長

- ① 点字事業は点字印刷機による印刷も定着、前年比200%・きょうされん他の点字印刷注文など今後の伸張に期待したい
テープ事業は徐々に縮小傾向として推移している
- ② パソコン班も特に変化無く推移しているが、リピートへの働きかけに一層の努力が必要である
- ③ 製菓班は基盤整備にて、前年比140%余順調に推移してきている なかまの大きな柱にしたい
- ④ 木工班は前年比300%、有力製品を絞るなど効率向上に努力し、また体制強化し売上を伸ばしたい

5-2 外請・および雑収入について

- ① 多くの利用者の多様な仕事を確保するためには、外請事業を特別な意味を持つ、今後も継続する
- ② 現在の外請け先を大切に、その作業を中心に継続する
- ③ ただし、作業効率・収入効率の良い事業は模索して行く、施設清掃は継続する

5 2014年度施設整備事業他について

① 施設増設・駐車場確保のため隣接土地の購入完了

2014年度末現在、定員40名に対し現員48名となっており、50名のところで利用者受入を断らざるを得ない状況であり、且つ2016年度はしげのぶ3名・みなら1名・その他1名が入所希望の状況にある
従って、定員を40→50名とすることを前提に「施設増設」を申請する
その前提として、隣接土地300坪の購入を進め、「開発申請」「農地転換」手続き・売買契約・登記・造成工事もおわり、施設建設の準備は完了した
土地売買代金10,500千円、諸手続費用/造成工事8,620千円 計19,120千円

② その他の施設整備関連支出(主な支出)

1)	5月	消火器8本全数交換(日本消防器具センター)	¥56,160
2)	5月	シャワー設備交換工事(コープスマイルえひめ)	¥162,000
3)	6月	マキタ電子ルーター	¥45,800
4)	6月	日立工機自動カンナ修理	¥106,000
5)	6月	木工室エアコン2台オーバーホール	¥90,000
6)	8月	AED(フィリップス製)キャノン:バッテリー交換	¥37,720
7)	8月	厨房レンジフード清掃(サニクリーン)	¥60,000
8)	8月	生活介護パーティション取り外し・取付/まつり用カーテン購入	¥110,000
9)	11月	男子小便器1台不具合修理	¥20,000
10)	12月	東芝DAYNABOOKパソコン(2008年購入パソコン障害により交換):5年補償	¥86,000
11)	2月	ベルトソー購入(15年以上使用のベルトソーとの交換)	¥78,256
12)	2月	工作作業台つきマルノコ購入	¥167,400
13)	3月	施設室内用サンダル購入(30足・選択可・名入り)	¥45,000

計 ¥1,064,336

以上